

「新市史(資料編)」自然災害碑等の石造物調査開始

先日 27 日(水)朝から『新市史(資料編)』における自然災害碑等の石造物調査を実施しました。この調査には、市史調査協力員兼市史執筆協力員の濱田眞尚氏(南国史談会会長)と唐岩淳子氏(南国史談会副会長)が、南国市より早朝から遠路お越しくださり、市域の主な自然災害碑の下見と巡見を行いました。

自然災害碑は、「宝永地震」「嘉永(安政)地震」「大正九年水害」「昭和南海地震」「平成十三年西南豪雨」「台風」等の石碑が市内に点在していますが、これらの代表的な石碑の碑文の翻刻や拓本を『新市史(資料編)』に掲載したいと考えています。

唐岩淳子調査協力員は、石造物拓本技術に長けており、国宝重要文化財等保存活用事業における真念庵周辺の石造物調査でも、たくさんの拓本を作成していただきました。拓本は、パソコンの活字では表現しきれない、碑文の持つ質感を感じ取ることができます。調査結果が楽しみです。



左:下ノ加江地区長野集落の大正九年水害碑 右:下川口地区郷集落の大正九年水害碑

松竹映画「雲がちぎれる時」のロケ写真アルバムを

市史編さん室へ寄贈

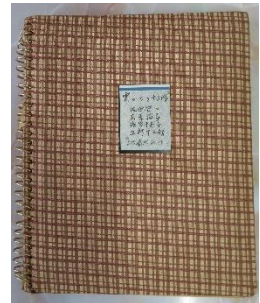
—(株)川北印刷取締役会長・川北隆男氏より—

松竹映画「雲がちぎれる時」は、昭和 36 年(1961)7 月 9 日に公開された松竹映画で、田宮虎彦の「赤い椿の花」を新藤兼人が脚色し、五所平之助が監督した作品です。土佐清水市域を舞台とした作品であり、佐田啓二・有馬稲子・仲代達也・倍賞千恵子等の人気俳優が出演し、市内各地で撮影を行っています。倍賞千恵子さんは、映画「男

はつらいよ」のイメージが強くありますが、「雲がちぎれる時」が映画デビュー作品であり、20歳の初々しい倍賞千恵子さんの演技を見ることができます。市内各地のロケでは市民と俳優や撮影クルーとの交流もあり、当時の土佐清水市は大いに盛り上がったといえます。

* * * * *

昭和30年(1955)4月、足摺国定公園が指定され、観光立市「土佐清水市」の呼び声が盛んになってきます。ただし、観光の基盤である道路整備が追いつかず、細い道路をバスが路肩ギリギリに運行することが多かった。そんな中、昭和32年(1957)に四国遍路巡礼のバスが伊豆田峠で転落、死者5名、重軽傷者32名の大惨事が発生します。そこで伊豆田トンネルの開通が急ピッチに進められ、昭和35年5月に開通式を迎えることになりました。



市史編さん室の吉本職員は、「恐らく松竹映画『雲がちぎれる時』はこの事故が脚本等の粗筋のヒントになっているのではないかと分析しています。

* * * * *

今回の市史編さん室への寄贈は、株式会社川北印刷取締役・川北隆男会長が若かりし頃、高知県交通に勤務していました。そのときの職場の先輩・竹内修氏(故人)と懇意となり、川北会長が直接、竹内氏から頂戴した物です。



ロケ写真を見ていると、この映画が公開された頃の古き良き時代の土佐清水市が彷彿されます。映画会社等に掲載許可を得て、『新土佐清水市史・資料編』にできるだけ掲載できるようにお願いしてみようと考えております。

第15章「第1節・トサシミズサンショウウオ」 「第2節・動物」 の1次原稿が市史編さん室へ提出される!

第15章「動物」の章は、「トサシミズサンショウウオ」「動物」「海上生物」の3節から構成され、「トサシミズサンショウウオ」「動物」を高知市立動物園わんぱーくこうちアニマルランド学芸員・吉川貴臣氏に、「海上生物」を足摺海洋館館長・新野大氏にご執筆いただいております。

* * * * *

先週末、新野館長から原稿提出がなされ、今週初め吉川学芸員から原稿提出されました。短い期間に仕事と両立し、執筆いただいた2名の執筆協力員に心より感謝を申し上げます。このあと提出された原稿は、市史編さん室でざっと校正を行い、内容確認を行います。その後、委託業者に郵送し、ゲラ刷り原稿が作成される予定になっています。ゲラ校正においても2名の執筆協力員には、重ねてお世話をおかけしますが、引き続きよろしくお願いたします。